



JA兵庫みらい
営農経済部 あぐり創生課
TEL 0790-47-1282
FAX 0790-47-1674
2025. 8月号

園芸 【秋取りじゃがいもを作ろう】

定植時期・種芋の準備

秋取りのじゃがいもは8月中下旬～9月上旬が定植適期となります。種芋は必ず種苗店等で販売されている無菌のものを使用してください。食用のじゃがいもは生育を阻害する病原菌に感染している可能性が高く、病気の芋は種芋で使用できません。春作では種芋を切って植え付けますが夏作ではカットせずに、50g以下の小さな種芋をそのまま植え付けるのがオススメです。

ほ場の準備・定植

水はけが悪いと疫病が出やすくなるので、水はけの良いほ場を選びましょう。土質がアルカリ性に寄ると生育が悪くなり、そうか病を誘発しますので、石灰は控えめにしてください。植え付けの一週間ほど前に1㎡あたり牛糞堆肥1kg、園芸化成100gをまいて深耕しておきます。定植当日は幅15cm、深さ10cmほどの植え溝を掘ります。植え溝の間隔は70cm程度が目安となります。溝の中央に30cm間隔で種芋を植え付け、上から5～6cmほどの厚さで覆土します。植え付ける場合はたくさん芽が出ている方を上にして定植しましょう。

芽かき・追肥・土寄せ

発芽し、草丈が10cm程度になったら芽かきを行います。残したい芽の根元を押さえて抜き取る芽を横に引き抜いてください。1株あたりの本数が少なければその分芋が大きくなり、多ければ小さいものがたくさん取れます。秋じゃがは大玉になりにくいので1株1,2本の芽かきが望ましいです。芽かきが終わったら園芸化成を1㎡あたり30g追肥し、1回目の土寄せを行います。芽が成長し、蕾が見え始めた頃が2回目の追肥と土寄せのタイミングとなります。1回目と同じく1㎡あたり30g園芸化成を追肥し、2回目の土寄せを行います。土寄せが足りないと地上に芋が露出して日光に晒された部分が緑化してしまいますので、2回目の土寄せは厚めに行ってください。

収穫

葉や茎が黄色く枯れ始める11～12月頃が収穫の目安となります。土が湿っている時に収穫すると保存中に腐りやすくなるので、出来るだけ土の乾いた時に収穫してください。

病害虫について

じゃがいも栽培で注意の必要な病気は疫病、ウイルス病、そうか病、軟腐病などで、ウイルス病のように農薬では対処不能で抜くしかないというものもあります。害虫ではアブラムシ、テントウムシダマシ、ケラなどに注意が必要で、特にアブラムシはウイルス病を媒介することがあります。少しでもおかしいと感じたら最寄りの営農生活センターまでご相談ください。

水稲 【出穂前後の病害虫防除について】



イネカメムシ

水稲栽培も後半を迎え、仕上げの時期になりました。近年、不稔米を発生させるイネカメムシの被害（特に早生品種）が増加しております。被害が懸念される圃場については、計画的な防除を心がけましょう。

水管理

出穂期から登熟期にかけて、水が不足しないように注意しましょう。特に、開花期以降の水不足は籾の稔実を悪くします。しかし、水をため過ぎても、根に十分な酸素を送ることが出来ず、根の活力を維持できなくなり、品質低下のおそれがあります。

出穂後の水管理は、足跡に水が無くなったなら入水する「間断かん水」を行い、「飽水状態」で管理します。入水は夕刻から行き、夜間のほ場水温や地温を下げ、健全な根を維持しましょう。落水は出穂完了後30～35日ごろを目安に行い、乾燥が続く場合は走り水をします。早期落水は枯れ熟れ状態を招き、粒張りの悪化から未熟粒の発生や胴割れ粒の原因となるので注意しましょう。

【基幹防除剤】

いもち病・カメムシ類・ウンカ類の基幹防除は必ず行います。出穂前防除として、ダブルカットバリダトレボン粉剤3DLまたはフジワラップ粒剤を散布してください。

【粉剤防除】ダブルカットバリダトレボン粉剤3DL

10aあたり散布量／3～4Kg：使用時期／穂揃期まで
主な適用病害虫／いもち病・紋枯病・もみ枯細菌病・内穎褐変病・ウンカ類・ツマグロヨコバイ・カメムシ類・コブノメイガ
※風の強い日や日中を避け、風の弱い夕方に散布を行ってください。



【粒剤防除】

フジワラップ粒剤

10aあたり散布量／4Kg：使用時期／収穫30日前まで
主な適用病害虫／いもち病・稲こうじ病・ウンカ類・ニカメイチュウ・カメムシ類・登熟歩合向上
※飛散しにくく、根から成分を吸収し効果を発揮する粒剤タイプの薬剤です。



【イネカメムシ対策】【豆つぶ剤防除】

スタークル豆粒

10aあたり散布量／250g：使用時期／出穂3日前ごろ（収穫7日前まで）
主な適用病害虫／ツマグロヨコバイ・ウンカ類・カメムシ類
※無人ヘリ防除を2回ご注文されている方は、原則、粉剤・粒剤の散布は必要ありません。ただし、イネカメムシが多発した場合は、速やかに防除を行いましょ。



【イネカメムシに注意しましょう！】

近年全国的に発生しているイネカメムシですが、昨年は兵庫県下ほぼ全域で発生が確認されました。

イネカメムシによる被害として最も気をつけなければいけないのが、出穂直後の稲を吸汁加害することで不稔被害が発生します。イネカメムシが多発した際は大幅な減収や斑点米の要因となりますので、防除を徹底しましょう！

問 い 合 わ せ 先

加西営農生活センター TEL0790-47-1286	三木営農生活センター TEL0794-82-6150	小野営農生活センター TEL0794-63-6905
-------------------------------	-------------------------------	-------------------------------